

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

事業名 生態系保全市町村支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 環境生活政策課 生物多様性係 電話番号：058-272-1111 (内 2923)

E-mail：c11260@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 20,000 千円 (前年度予算額： 25,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	25,000	0	0	0	0	0	25,000	0	0
要求額	20,000	0	0	0	0	0	20,000	0	0
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

貴重な自然環境の保全、野生生物との共生、特定外来生物の防除など、地域の生態系の保全を推進するためには、市町村と地域住民が一体となり協力して取り組むことが欠かせないことから、これらに取り組む市町村を支援する。

(2) 事業内容

生態系保全に取り組む市町村に対し支援

【実施主体】市町村

【補助率】事業費の1/2以内 (上限：5,000 千円、下限：500 千円)

(3) 県負担・補助率の考え方

生態系保全事業は、市町村と地域住民が一体となり協力して取り組むことが欠かせないことから、補助率1/2以内は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	19,950	市町村事業への補助
旅費	50	
合計	20,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第6次岐阜県環境基本計画 基本施策3 (3) 生物多様性の保全
生物多様性ぎふ戦略 第一の視点「森・里・川・海のつながりを守る」

(2) 国・他県の状況

近隣県（愛知、三重、静岡、福井、石川、富山）において、生態系保全事業を実施する市町村等への費用支援は実施していない。（一部の県において県が直接実施する場合がある）

(3) 後年度の財政負担

清流の国ぎふ森林環境基金事業における5か年計画に基づき、令和8年度まで実施。その後は事業の達成状況や効果等を第三者の意見を踏まえて検証し、以降の対応や方針を決定。

(4) 事業主体及びその妥当性

市町村が実施。地域の生態系に生ずる諸問題は、地域住民と一体となって取り組むことが期待され、その地域事情に精通した市町村は妥当である。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	生態系保全市町村支援事業費補助金
補助事業者（団体）	市町村 （理由）地域の生態系に生ずる諸問題は、地域住民と一体となって取り組むことが期待されることから、地域の事情に精通した市町村の支援を実施する。
補助事業の概要	（目的）地域の生態系を保全・再生する。 （内容）市町村が行う生態系保全の取組みを推進する。
補助率・補助単価等	定額・定率・その他（例：人件費相当額） （内容）補助率1/2以内（上限5,000千円、下限500千円） （理由）市町村の自己負担金、県の負担割合を勘案した結果。
補助効果	地域生態系の保全が図られる。
終期の設定	終期令和8年度 （理由）第3期清流の国ぎふ森林環境基金事業の終期

(事業目標)

- ・終期までに何をどのような状態にしたいのか
生態系の保全・再生に取り組む市町村を支援し、地域生態系の保全等を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H28)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①特定外来生物の防除に取り組む市町村数 (延べ数)	—	7	9	18	45	—

補助金交付実績 (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度
	—	—	25,482千円

(これまでの取組内容と成果)

令和3年度	<p>○取組内容 市町村が地域住民と一体となって特定外来生物の防除が行われた。</p> <p>○事業成果 地域住民と協働で取り組む市町村を支援することで、生態系保全が図られるとともに地域住民の意識向上に寄与した。</p>
	指標① 目標：7 実績：7 達成率：100%
令和4年度	<p>○取組内容 市町村が地域住民と一体となって貴重な自然環境の保全や、特定外来生物の防除が行われた。</p> <p>○事業成果 地域住民と協働で取り組む市町村を支援することで、生態系保全が図られるとともに地域住民の意識向上に寄与した。</p>
	指標① 目標：9 実績：5 達成率：56%
令和5年度	令和7年度当初予算にて追加
	指標① 目標： 実績： 達成率：

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	生態系保全事業を推進するためには、市町村と地域住民が一体となり協力して取り組むことが必要である。市町村からも活動支援への要望がある。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 2	市町村への活動支援により、地域での生態系保全事業が行われ、その保全に貢献している。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 1	市町村からの支援要望も踏まえ、市町村への支援を行い、引き続き地域住民と協働で取り組む市町村を増やしていく。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>環境保全や地球温暖化防止、生物多様性など県民の関心が高まっており、生態系の保全等にかかる様々な課題に対する支援が必要である。引き続き市町村に対し、補助金を活用し、地域住民と協働して取り組むよう働きかけていく。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>環境保全や地球温暖化防止、生物多様性など県民の関心が高まっており、住民と協働で取り組む市町村事業に補助を行うことで、地域生態系の保全等に資することができる。第3期清流の国ぎふ森林環境基金事業の5か年計画に基づき、引き続き事業</p>

を継続する。